



4  
「木」

#### 四 ★ 木

会員登録フォームに生年月日の入力欄があり、タップするとカレンダーが表示された。このタイプは初めてだ。現在の月の横に表示された矢印を押すと、ひと月ずつ過去に戻っていく。あまりよく考えず、ゲームみたいに勢いよくその矢印を押しはじめた。タタタタタタタタ。ポケモンにモンスターボールを投げたあと、Aボタンを連打していたのを思い出す。ボタンをググツと押し込む友達もいた。トキワの森でそれをやってピカチュウを捕まえたんだとか。

指が疲れて停止する。と、同時に一度冷静になり、さすがにこの入力形式はおかしいと思い直した。小さく表示された西暦の部分を探るように押ししてみると、年数の一覧が出た。

「なんだよ……」苛立ち混じりの親指でシュツとなげやりにフリックすると、2010年。みんなして○○なうって言った頃である。当時、青山通りのマクドナルドでやたらマックポークを食べてた。今はもう味わうことのできない懐かしいソースの匂いをかすかに感じながら、今度は三苦薫のドリブルのような細かいタッチで2〜3回画面にふれ、足早に1991年へと向かった。遅れを取り戻すように淡々と日付の入力まで済ませる。こんなところで自分の初情報にふれるとは思ってもみなかったが、僕が生まれた日は、木曜日だった。

木陰<sup>こかげ</sup>に倒れこむようにゴールした。中学時代の罰走の記憶だ。罰として走ると書いて罰走。といっても、それほど悪さをしたかという疑問が残る。使ったサッカーボールの数が片付けの時に合わなかった。あるいは誰かが、禁止されてるコンビニでの買い食いをしたとかケータイを持ってきてたとか。何かあると部員全員、連帯責任でさまざまな罰を受けた。内容を書くのも憚られる。そのうちのひとつが罰走というわけ。外部から教えにきてたコーチの、「ここは最後の昭和だな」という言葉が印象的だ。いまだに、「顧問」という単語を聞くとドキツとする。

試合ともなると激しさを増す。ある時、キックオフの直前、この試合で相手に点を取られたら、その数×100本のダッシュだと言われた。おおげさに、強い言葉で気合を入れたともいえる。でもこの発言をしたのは本当にそれをさせる人だ。みんなガチガチになって0-3で負けた。

走らされるのはグラウンドの隅、距離にして1本あたり20メートルほどで、ゴール地点が木陰になっていた。ダッシュ系は心臓にくる。胸が苦しいというか痛いというか。思春期の恋とは全然ちがう。

ダッシュ300本の記憶は曖昧だ。ただ、とにかく極限まで走らされたことと、帰り支度をしながらその様子を見てた相手チームが引いていたことは覚えてる。へとへとになり、座り込んだ。水を飲み、風に当たる。いまだかつてこの瞬間ほど木陰のありがたみを感じたことはない。

木はいつも優しくかった。水と風も好きだが、時に雨となり、逆風となり、屋外とするスポーツでは困らされることも少なくなかった。その点、木はいつも味方でいてくれた。腹も立てないし。

中3になった僕は、シンスプリントというスネの炎症に悩まされるようになった。休まなかつたので悪化し、ついには疲労骨折を引き起こした。中学ラストの夏の大会は単に痛みとの戦いとなってしまい、サッカーを楽しめる状態とは程遠く、不本意な終わりを迎えた。苦い思い出だ。

何かしらの苦勞話のあとに、「大変だったけど、今は為になっている」と聞かされるパターンはよくある。要注意かもしれない。それを言う人は、誰かに同じことを強要する可能性が高いのだ。理不尽な指導など消えてなくなればいい。高みを目指す人には、その願いが本気ならば自分で自分を奮い立たせる本能が備わっている。よって、強要は不要。令和7年を生きる方々には、楽しさとやりがい、その人に合った良さを引き出そうとしてくれる人物がそばにいてほしい。それでこそその指導者、リーダーじゃないか！

気がつくと、○○中学校と検索ボックスに入力していた。並んだ写真の中に、かつて散々走らされた場所が写っている。

例の木がまだそこにあった。

自然体で、静かに年輪ねんりんを重ねながら、いつもそこにいる。道ゆく人はふだん気にもとめないかもしれない。けれども、誰かには安心を、誰かには癒しを、幸せをもたらす。押されたって、びくともしない。

木のようになれたら。そんな風におもった。